

春季展

暮柳舍甫立役  
後百年俳書展

暮柳舍甫立役書

(暮柳舍甫立役書)



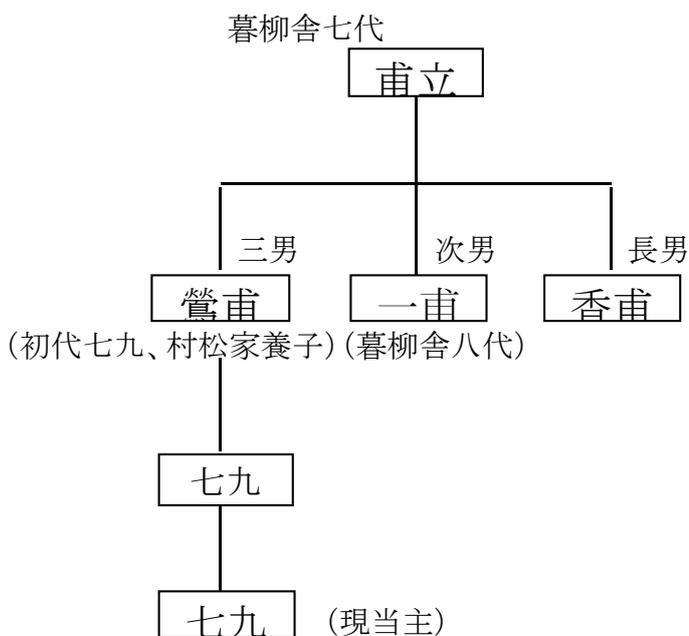
金沢市立玉川図書館近世史料

暮柳舍甫立筆「芭蕉画像」

## はじめに

このたび、藩政期に江戸三度飛脚の頭取を勤めた村松家の現当主村松七九氏より俳諧史料の寄贈をうけました。初代七九の実父である俳人暮柳舎甫立の没後百年(明治41年没)にちなみ、春季展として「暮柳舎甫立没後百年俳書展」を開催いたします。

金沢は、蕉風俳諧を主流とし、地方俳壇において稀にみる内容をそなえているともいわれています。今回は初代希因から7代甫立までの暮柳舎にまつわる作品を中心に、当館所蔵史料および村松家所蔵の貴重な史料を展示しながら、金沢における俳諧史の一端を紹介したいと思います。



甫立写真 (村松家所蔵)



暮柳舎代々硯(裏面)  
銘「暮柳舎伝来」

(村松家所蔵)

## 暮柳舎について

金沢における蕉風俳人の庵号。綿屋希因が暮柳舎を称し、2代後川、3代は後川門の車大が継ぎ、4代は北莖とされる。ついで5代は車大門の宇牧、6代は年風門の立介が継席し、明治14年(1881)に甫立が7代を継席した。(北莖を除いて甫立を6代とする説もある)

### 暮柳舎初代

#### 希因(綿屋)フタヤキイン

通称彦右衛門。『金沢古蹟志』には「暮柳舎希因先生は金沢観音町に住居し、俗名を綿屋彦右衛門と称し、家業酒造にて銭商売せられし也、本名は小寺氏なり」と記している。初号を幾因・申石子といい、北枝・支考・乙由に師事し、北枝の後を継いで百鶴園、後に暮柳舎を号した。芭蕉直門没後の北陸地方の重鎮であり、その門から天明中興に貢献した關更・麦水・二柳など錚々たる俳人が輩出した。寛延3年(1750)7月11日没、51歳。

### 暮柳舎2代

#### 後川(綿屋)フタヤゴセン

暮柳舎初代希因の子。北莖の父。小寺氏。通称市郎右衛門。父希因の後をうけて百鶴園又は暮柳舎と称す。俳諧は希因のほか蝶夢の指導を受け、明和7年(1770)には蝶夢の五升庵を訪ね剃髪した。希因没後は金沢俳壇の第一人者と目され、俳諧以外にも茶事などに通曉していた。一時、河北郡森下に庵を構えたこともある。寛政12年(1800)没。

### 暮柳舎3代

#### 車大(シャダイ)

暮柳舎2代後川の門から出て、寛政9年(1797)に後川から暮柳舎3代の継席を許される。「万家人名録」には「号暮柳舎加賀人」と記すだけで、その伝は不明であるが、「加賀の俳人通称菓子屋富十郎 後川門」と書かれたものもある。同11年に、芭蕉堂蔵芭蕉像は車大に譲られたとみられるが、この像はのち文政11年(1828)に、暮柳舎5代宇牧から春日社に移された。

### 暮柳舎4代

#### 北莖(綿屋)フタヤホクケイ

暮柳舎2代後川の子。祖父希因の百鶴園を継ぎ、鳥翠台も称したが、その経歴は未詳である。文化4年(1807)に北国巡杖記を出した。

### 暮柳舎5代

#### 宇牧(館屋)タチヤウボク

通称権兵衛、平七。暮柳舎2代後川の門人館屋世涼の子。横堤町に居住して足袋商を業とする。暮柳舎3代車大門下の俳人で、5代を継席する。天保8年(1837)3月14日、51歳にて没。山上町善導寺に葬られた。

### 暮柳舎6代

#### 立介(富津屋)トミツヤリュウカイ

通称喜助。梅田年風門下の俳人で、もとは島屋と称して袋町に居住し仲買業を営む。天保11年(1840)に館屋宇牧の養子(雨邨)より暮柳舎の文台と額、初代希因像等が譲られ、このとき暮柳舎6代を継席したとおもわれる。同14年8月6日、40歳にて没。野田山に葬られる。

### 暮柳舎7代

#### 甫立(島林)シマバヤシホリュウ

通称一平。金沢高岡町に生まれる。兄は甫翠。橋甫次郎次男で島林家の婿となる。父甫次郎が晩年明を失ったことにより、以来父の傍らで諸国行脚の者との交流を深め、父の代筆をしながら自身の俳諧技術を高める。明治14年(1881)12月に叔父の6代富津屋立介の後を継席して暮柳舎7代となる。明治41(1908)年5月19日、67歳にて没。野田山に葬られる。

# 暮柳舎にまつわる俳人

## 北枝(立花) タチバナホクシ

通称研屋源四郎または三郎兵衛。牧童の弟。能美郡小松に生まれ、金沢に出て磨刀を業とした。元禄2年(1689)芭蕉来遊を転機として蕉風流行とともに加賀俳壇の中心的存在となる。所居を寿天軒・趙翠台・鳥翠台ともいい、廓趙、百鶴園とも称する蕉門十哲の一人。享保3年(1718)5月12日没、廓趙北枝居士と諡し、卯辰の心蓮社に葬られた。

## 年風(梅田) ウメダトシカゼ

通称九栄、梅室門下の俳人。金沢桶町に居住し、狩野派の画をもって加賀藩に仕える。画号は季信といい、仏画に長じた。翠台を継席し、さらに北枝堂と改める。薙髪後は菅阿弥と称した。弘化3年(1846)9月18日、56歳にて没。三晴庵と諡し、常福寺に葬られた。

## 世涼(館屋) タチヤセリョウ

暮柳舎5代宇牧の父。通称権兵衛。金沢春日町に居住して骨董商を営む傍ら、町会所の吏となる。暮柳舎2代後川の門人にして所居を北庵といい、のちに百鶴園を継席した。文化5年(1808)3月9日、57歳にて没。山上町善導寺に葬られる。

## 雨邨(館屋、のち富田)

幼名門二郎。浅野屋新右衛門の3男で、暮柳舎5代宇牧の養子となった。号を雨邨といい、また、紋岱(モンタイ)、玄暉なども称した。俳諧のみならず漢詩にも長じ、父宇牧の死後、暮柳舎を立介に譲り、自らは松裏庵を継いだ。明治になって「富田」姓を名乗り、同29年(1896)、79歳にて没。

## 棹江(富田屋) トミヤヤトウコウ

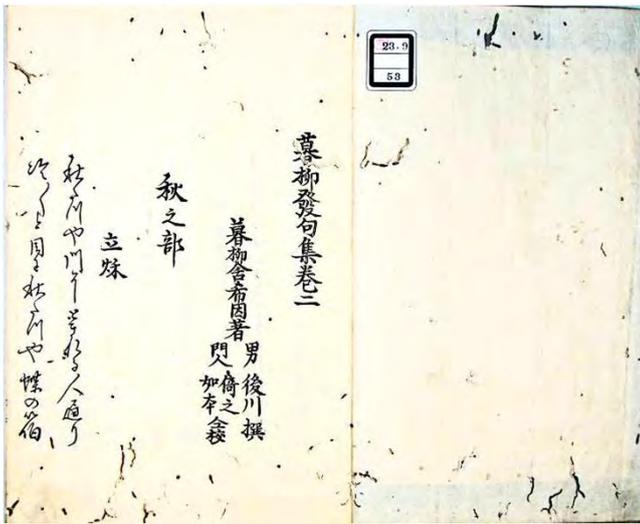
通称富田屋長兵衛。博労町に居住して米仲買を営む。眉山・蒼虬に学び、梅室とも親交があった。暮柳舎5代宇牧死後から6代立介継席までの一時、暮柳舎を預かったともいわれる。弘化4年(1847)2月4日、66歳にて没。

## 太甫(橘) タチバナタイホ

暮柳舎7代甫立の実父。通称甫次郎。金沢高岡町に居住し町会所の吏であった。所居を観月庵と号したが、晩年に明を失い、諸国を行脚する人々を招き入れて交流した。安政6年(1859)6月30日、74歳にて没。

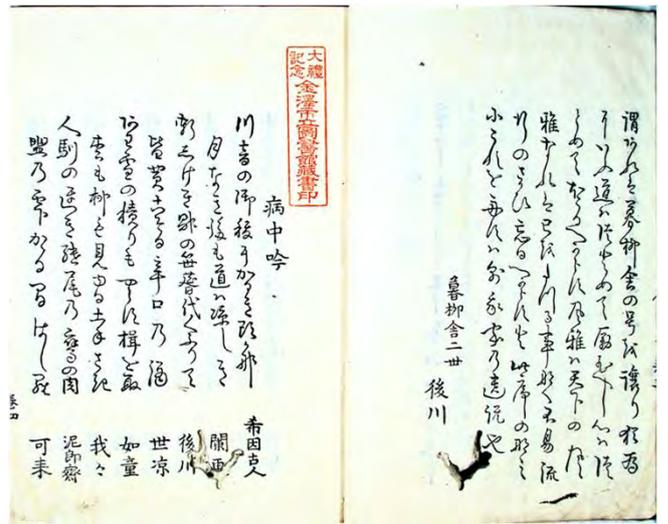
### 参考文献

石川県教育会金沢支会『金沢市教育史稿』石川県教育会、1919年  
和田文次郎編『金沢墓誌』加越能史談會、1919年  
日置謙編『加能郷土辞彙』金沢文化協会、1942年  
伊地知鐵男ほか編『俳諧大辞典』明治書院、1957年  
高木蒼梧『俳諧人名辞典』明治書院、1960年  
『金沢市立図書館蔵村松文庫目録』金沢市立図書館、1969年  
大河良一『加能俳諧史』清文堂出版、1974年  
『石川県史』第三編、石川県図書館協会、1974年  
『金沢市立図書館蔵富田文庫目録』金沢市立図書館、1977年



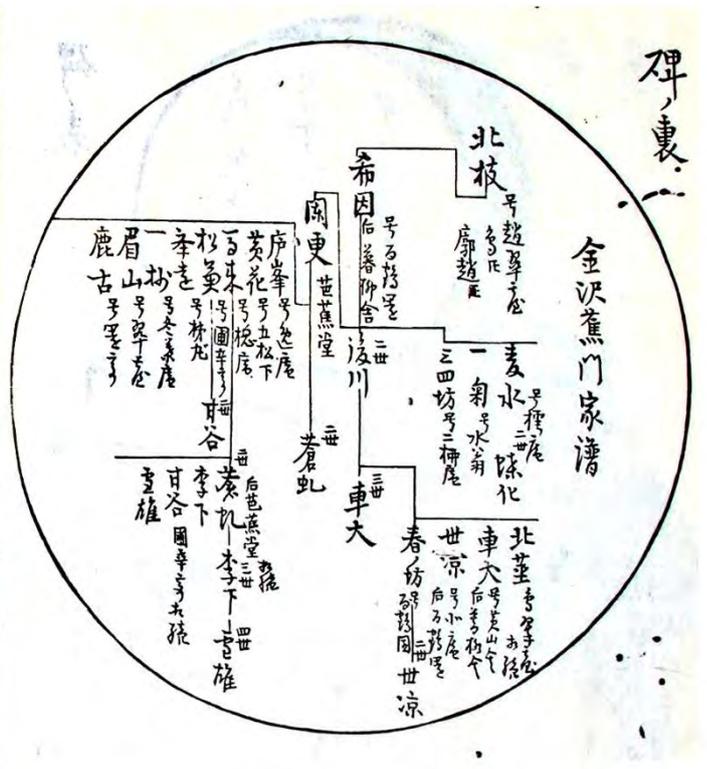
暮柳発句集 下(23.9-53)

暮柳舎希因17回忌追善集、2代後川撰による希因発句を集めたもの(下巻)



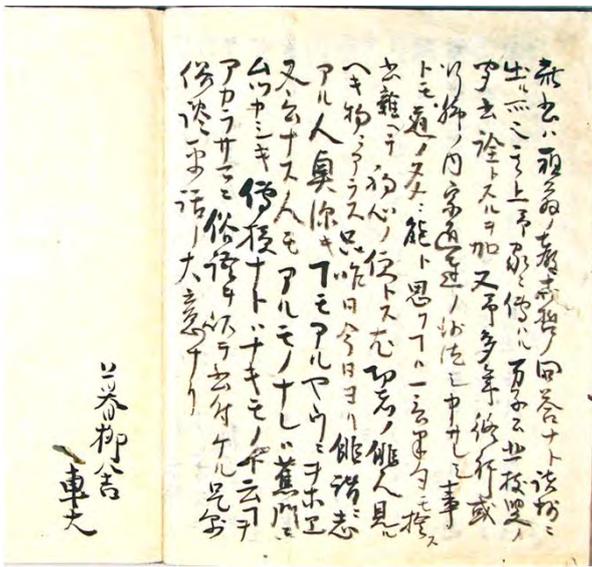
ゆめのあと(k9-53)

暮柳舎希因50回忌追善集、3代車大編、2代後川序、希因の病中吟がある



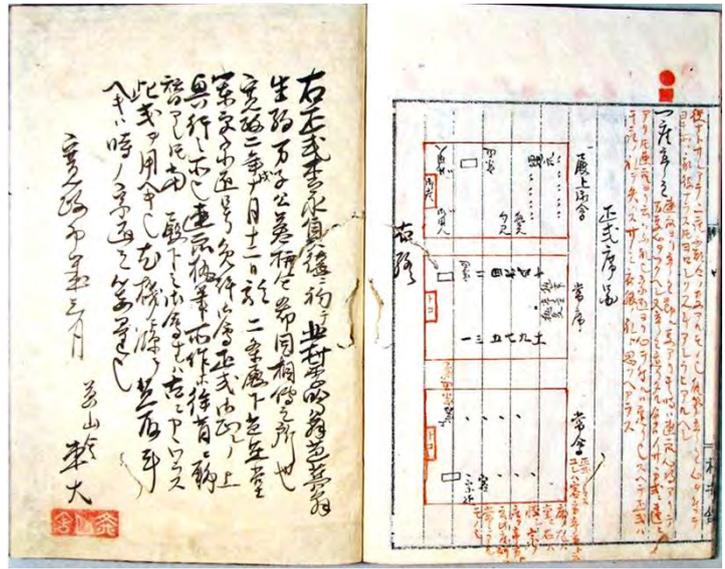
道のともし(23.9-58・21.9-324)

暮柳舎2代後川17回忌追善集、文化12年(1815)には、暮柳舎3代車大が観音山医王院に水茎塚を築いており、「道のともし」には水茎塚が描かれている(左上)。希因・後川の墨蹟を納め、碑陰に加賀俳人の系統を彫った(右上)。



俳諧すくろ(23.9-41)

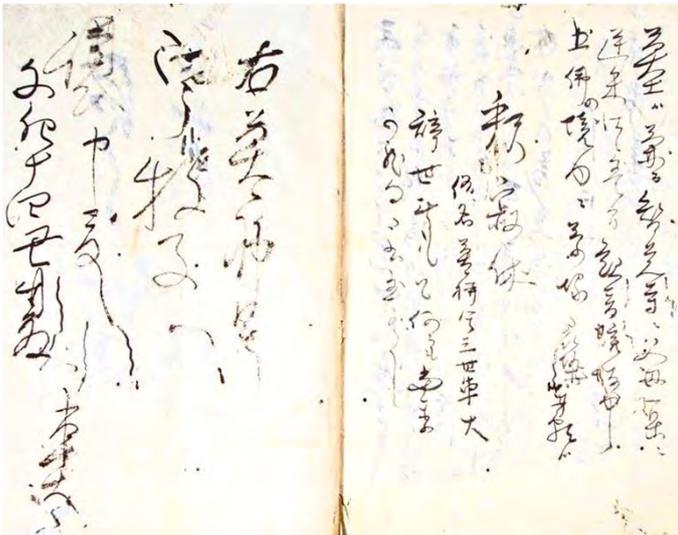
俳諧先人の説を抄録した入門書、蕉門の伝授について車大が述べている



正式伝(23.9-42)

寛政7年(1795)

松永貞徳にはじまる俳諧席次について、車大が記した書



遺書(23.9-26) 文化14年(1817)

3代車大筆、暮柳舎の号を宇牧に譲りたいとの旨が記されている



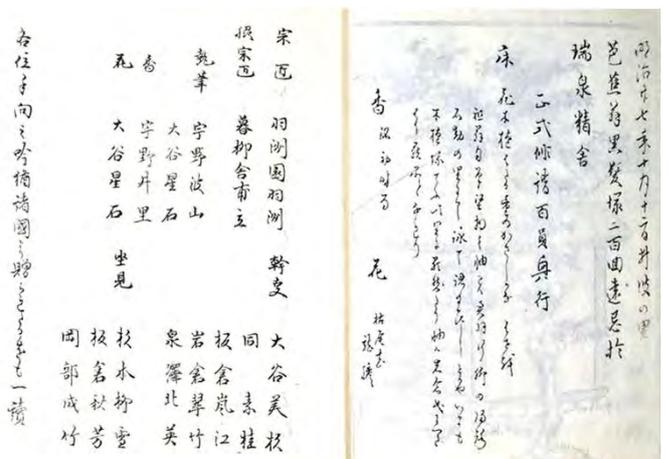
俳句 俳画 (村松家寄託)

鶯や かるがるとした 枝うつり 一甫



歳旦集(21.9-158)

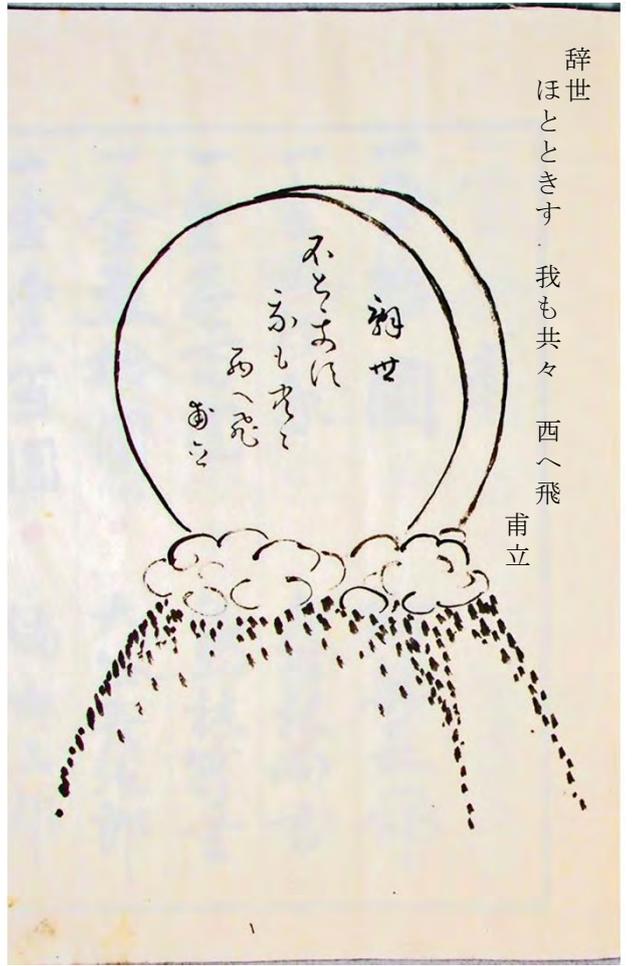
少年期の甫立の句がある、太甫は実父、甫翠は実兄



井波集(21.9-378)

明治27年(1894序)

芭蕉二百回忌興行、脇宗匠として甫立の名がみえる

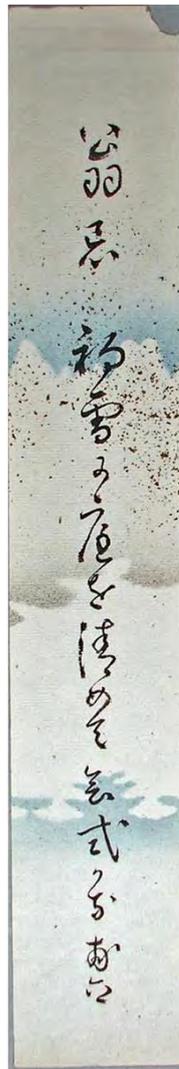


厚志録 (村松家所蔵)  
甫立句碑が描かれている

翁忌

初雪に 庭を清めて 会式かな

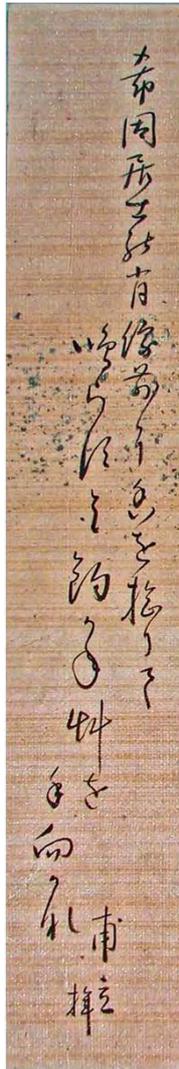
甫立



希因居士の肖像前に香を捻りて

鳴らすとも 釣かね草を 手向かな

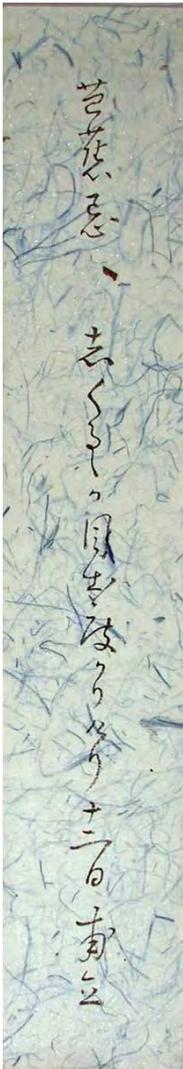
甫立 揮



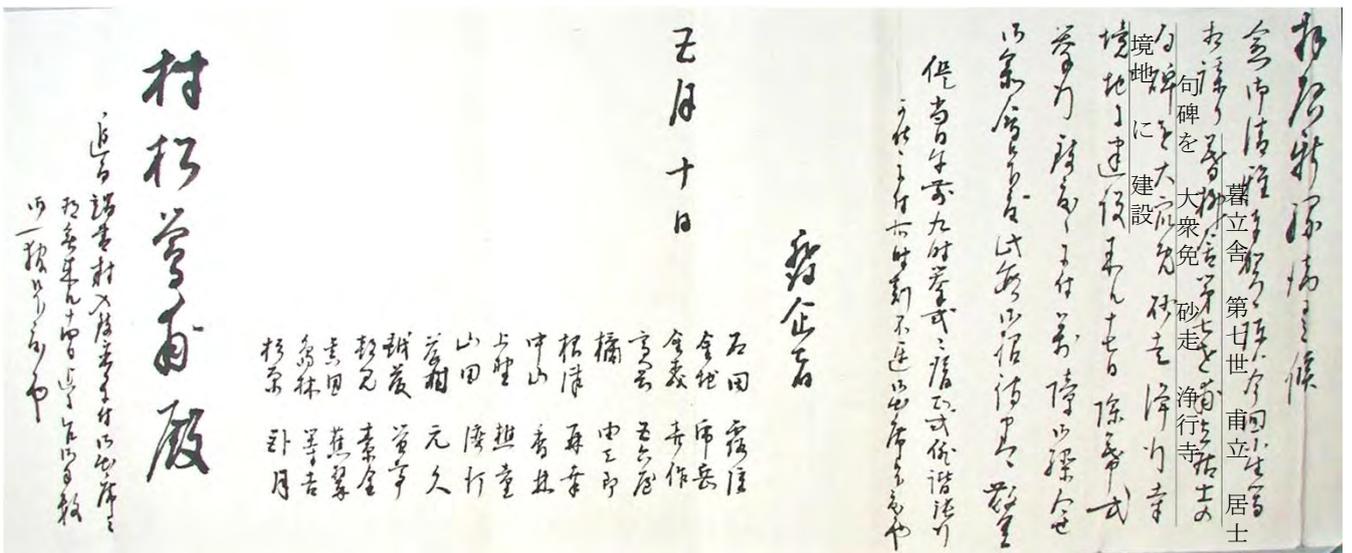
芭蕉忌

しくるるか 目出度かりけり 十二日

甫立

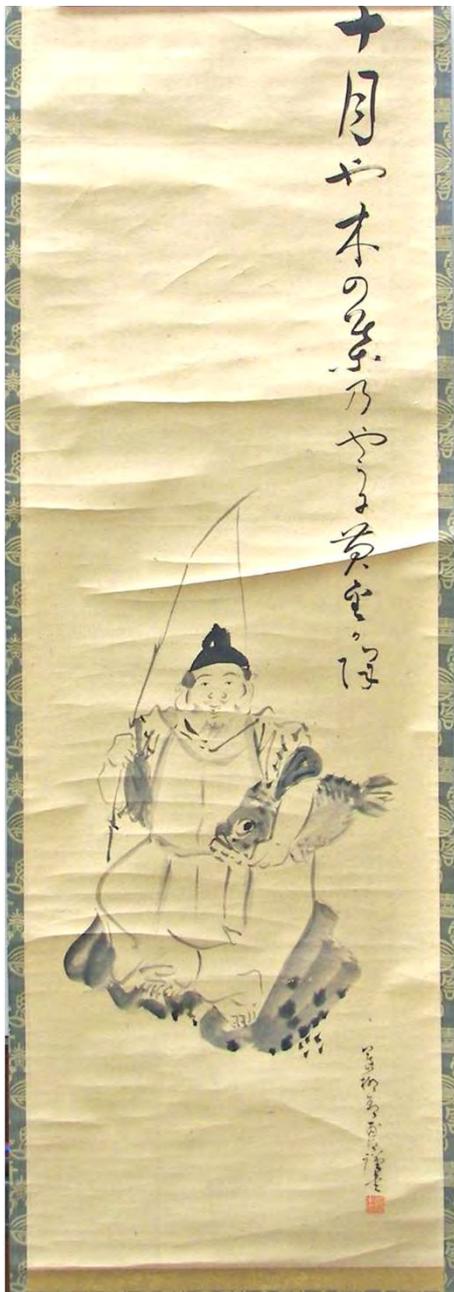


甫立短冊 (村松家所蔵)



甫立居士建碑に付書状 (村松家所蔵)

村松翁宛に、甫立句碑建設、および除幕式挙行について記されている



甫立画賛軸 戒図 (村松家所蔵)

十月や 木の葉のやうに 黄金か降

暮柳舎甫立謹書(印)



甫立画軸 蜻蛉図 (村松家所蔵)

日なほりて 見たれハ高し 秋の空 賢外(印)

甫立(印)

### その他展示史料

北時雨	k9-108
今人発句百人集	k9-294
芭蕉像を車大に譲る辞	23.9-23
遺書	23.9-26
こと葉の露	23.9-55
葉柳廻影	21.9-287
雨のゆふへ	21.9-309
しくれ笠	21.9-374
甫立短冊(絶筆)	(村松家所蔵)
鶯甫発句控	(村松家所蔵)
甫立画賛軸(蝸牛図)	(村松家所蔵)
甫立俳句	(村松家所蔵)

表紙 芭蕉画像 23.7-42

※なお、掲載史料と展示史料は一致しない場合があります。